本邦産ヒメヒゲナガアブラの検索表と二新種

進　士　織　平

A KEY FOR DISTINGUISHING THE JAPANESE *MACROSIPHONIELLA* (APHIDIDS) WITH THE DESCRIPTIONS OF TWO NEW SPECIES

By O. SHINJI

(1) 邦産ヒメヒゲナガアブラ屬の種の檢索表

A. 有翅胎生雌蟲

1. 體は黑色乃至濃赤色、蜜槽及び尾片は黑色なり……………………………… 2
   體は黑色ならずして、主に綠色又は帶黃綠色なり………………………… 4
2. 體は概して黑色にして第3觸角節上には28–32個の感覺器あり……………
   ……………………………………………………………キクヒメヒゲナガアブラ
   體は黑色ならず…………………………………………………………………… 3
3. 體は褐色若しくは綠色にして白粉を裝ひ、第3觸角節上には90–120個の感覺器あり……………………………………ヨモギヒメヒゲナガアブラ
   體は樺色又は黃樺色にして第3觸角節上には22–26個の原生感覺器あり…
   ……………………………………………………キイロヒメヒゲナガアブラ
4. 體は綠色、尾片は綠色にして第3觸角節上には約22–26個の原生感覺器あり……………………………………クソニンジンヒメヒゲナガアブラ
   體は綠色又は帶黃綠色、第3觸角節は基部が綠色にして55–60個の感覺器を具へたり………………………………………ヨメナヒメヒゲナガアブラ
   體は綠色にして白粉を裝ひ、尾片並に蜜槽は共に黑色、第3觸角節上には16–20個の感覺器あり……………………………アヲヒメヒゲナガアブラ

B. 無翅胎生雌蟲

1. 體は黑色乃至濃褐色にして、第3觸角節上には18–20個の原生感覺器を具へ、尾片は蜜槽よりも長し……………………キクヒメヒゲナガアブラ

體は黑色ならず……………………………………………………………………… 2

2. 體は濃褐色乃至赤褐煉瓦色なり、一般に白粉を裝ひ、第3觸角節上には50–70個の感覺器を具へ、尾片竝に蜜槽は約同長にして共に黑色なり……………………………………………………………ヨモギヒメヒゲナガアブラ

體は濃褐乃至煉瓦色ならず……………………………………………………… 3

3. 體は黃樺色にして蜜槽竝に尾片は共に黑色、第3觸角節上には13–16個の感覺器あり…………………………………キイロヒメヒゲナガアブラ

體は綠色乃至帶黃綠色なり……………………………………………………… 4

4. 體は綠色、尾片は體と同色の綠色なり、第3觸角節上には2–3個の感覺器あり ……………………………………クソニンジンヒメヒゲナガアブラ

體は綠色なれども、尾片竝に蜜槽は共に黑色なり ………………………… 5

5. 第3觸角節上には3–5個の感覺器あり……………アヲヒメヒゲナガアブラ

第3觸角節上には50–70個の感覺器あり………ヨメナヒメヒゲナガアブラ

(2) 邦產ヒメヒゲナガアブラの分布目錄

1. キクヒメヒゲナガアブラ

Macrosiphoniella sanborni GILLETTE

Macrosiphum sanborni GILLETTE, Canadian Entomologists, XL, p. 65 (1908).
Macrosiphum chrysanthemi SANBORN, Kansas Univ. Sc. Bull., III, p.73, (1904).
Macrosiphum bedfordi THEOBALD, Bull. Ent. Res. IV, p. 318 (1914)
Macrosiphum nishigaharae ESSIG & KUWANA, Proc. Calif. Acad. Sc. 4th ser. VIII, p. 50, (1918).

宿主植物: 菊

標型地: 北米合衆國カンサス州カンサス市

分布: 北米合衆國(サンフランシスコ、バークレー、パロアルト、サンノゼ、フレスノ、ローサンヂルス、パサデナ、カンサス、コロンビア、セントルイス、ワシントン、エセカ、ニューヨルク)、英吉利(ロンドン)以上著者。支那、臺灣、以上高橋氏、札幌(松村氏)。東京(桑名及びエシヒ氏)。更に舊日本に於ては著者は函館、青森以南宮崎、都城、川內、鹿兒島及び那瀨、那覇の各地に於ても採集せるを以て、玆には全國的の分布と記し詳細なる採集地を掲げざる事とす。

2. アヲヒメヒゲナガアブラ

Macrosiphoniella yomogifoliae SHINJI

Macrosiphum yomogifoliae SHINJI, 動物學雜誌第34卷788頁、(1922).
Macrosiphoniella tanacetaria TAKAHASHI, Aphid. Formosa, pt. 1, p. 27, (1921).

宿主植物: ヨモギ

標型地: 宮崎縣都城市

分布: 函館、青森以南都城鹿兒島、那覇、糸萬、臺北(高橋)。

3. ヨモギヒメヒゲナガアブラ

Macrosiphum yomogi MATSUMURA

Macrosiphum yomogi MATSUMURA, 1917年度

宿主植物: ヨモギ、キク

分布: 朝鮮、北海道、九州、四國、本州

4. ヨメナヒメヒゲナガアブラ

Macrosiphoniella moriokae SHINJI

Macrosiphoniella moriokae SHINJI, 動物學雜誌第38卷362頁、(1924).
Macrosiphoniella astericola OKAMOTO & TAKAHASHI, Insecta Matsumurana, Vol. I, p. 132, (1927).

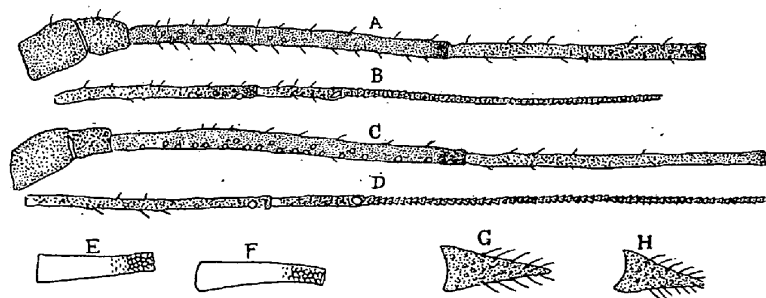
宿主植物: ヨメナ

分布: 朝鮮(釜山、大邱、水原、京城、平壤)、北海道(函館、小樽、札幌、旭川)、本州(青森、淺蟲、尻內、八戶、種市、盛岡、花卷、一ノ關、小牛田、鹿島臺、松島、仙臺、平、水戶、福島、山形、鶴岡、大曲、秋田、弘前、金澤、福井、富山、長岡、直江津、新潟、長野、川越、大宮、所澤、東京、千葉、八幡、銚子、鶴見、川崎、横濱、戶塚、熱海、三島、興津、沼津、靜岡、堀ノ內、掛川、濱松、豐橋、名古屋、岐阜、京都、大阪、姬路、山崎、鳥取、大社、津和野、廣島、尾ノ道、多度津、琴平、丸龜、下關、門司、博多、久留米、熊本、八代、人吉、都城、宮崎、川內、鹿兒島)。

5. カバイロヒメヒゲナガアブラ

Macrosiphoniella fulvicola SHINJI n. sp.

無翅胎生雌蟲

體は卵狀にして短毛を粗生し、地色は帶赤樺色なり。頭部は黑色を帶び、額瘤は顯著にして、外方へ開き、黑色にして短毛を粗生せり。口吻は辛じて後肢に達し、後半部は黑色を帶び、基半部は體と同色なり。複眼は濃赤色にして同色の眼瘤を伴へり。觸角は6節より成りて體よりも長く、各節は若干の長毛を

カバイロヒメヒゲナガアブラ
Macrosiphoniella fulvicola SHINJI

A–B. 無翅胎生雌蟲の觸角 C–D. 有翅胎生雌蟲の觸角 E及G. 無翅胎生雌蟲の蜜槽と尾片 F及H. 有翅胎生雌蟲の蜜槽と尾片

生ぜり。全長に亙りて黑色にして、第4節以後の諸節は覆瓦狀を呈せり。第1節は第2節の約1倍半大、第2節は幅よりも長し。第3節は前腿節と約同長にして8個乃至12個の小圓感覺器を具へたり。第5節は第4節よりも短くして末端に近く1個の原生感覺器を具へたり。第6節の鞭狀部は基部の約7倍長あり。胸部は腹部と共に各々其背面には黑色部を具へたり。肢脚は頑丈にして短小なる剛毛を生じ、全長に亙りて黑色なり。蜜槽は準圓筒狀にして第6觸角節の基部よりは僅かに長きのみにして、基部は末端に比して幅に於て大なり。全長に亙りて黑色にして、後半部は網狀を呈し、前半部は覆瓦狀を呈せり。

有翅胎生雌蟲

體は長卵狀にして短毛を生ぜり。地色は鮭赤色なり。頭部は黑色を呈し、額瘤は顯著にして外方へ開き、薄黑くして若干の短毛を生ぜり。複眼は濃赤色にして同色の眼瘤を伴ひ、單眼の周緣は濃赤色なり。口吻は後脚の基節を越して

伸び、全長に亙りて黑色なり。觸角は6節より成りて體よりも長く、第3節の基部が輪狀をなして黄色なるを除けば全長に亙りて黑色なり。第3節以後第6節の末端に至る部域は覆瓦狀を呈せり。第1節は第2節の約1倍半大、第2節は幅よりも長し。第3節は前腿節と約同長にして若干の長毛と22個乃至35個の小圓狀感覺器を具へたり。第4節は第5節よりも長く、第5節には末端に近く1個の原生感覺器あり。第6節の鞭狀部は基部の約6倍長あり。胸部は黑色を帶びたり。肢脚は頑丈にして腿節の基部なる小域が黄色なるを除けば殘部は木炭黑色なり。翅は準透明にして脈と翅脈とは黑色味を帶びたり。前翅の中脈は分れて3枝を成し其第3枝は第2枝の約中點より生ぜり。腹部は背面に黑色の横走帶を具へたり。蜜槽は第6觸角節の基部よりは少しく長く、後半部は網狀を呈し基半部は覆瓦狀を呈せり。全長に亙りて黑色なり。尾片は準圓錐狀にして蜜槽と約同長なり、約10對乃至12對の長毛を生じ、黑色なり。尾板は圓く終りて黑色なり、若干の毛を生ぜり。

測定 (mm.): 體長 2.70; 體幅 1.40; 翅長 3.15; 翅幅 1.12; 觸角長 III 0.20, IV 0.11, V 0.90, VI 0.02+1.00; 腿節長 前 0.90, 中 0.90, 後 1.20; 脛節長 前 1.20, 中 1.25, 後 1.30; 蜜槽長 0.30; 尾片長 0.25.

宿主植物: ヨモギ、キク

標型地: 岩手縣盛岡市下臺。

採集年月日: 昭和3年7月11日。

分布: 盛岡、花卷、仙臺、岩沼(宮城縣)。

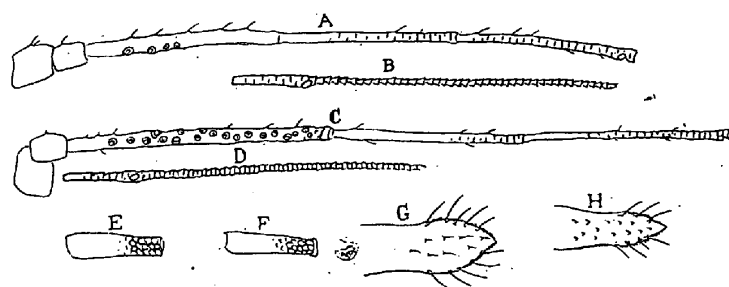
習性: 本種は四季を通じて蓬の葉裏に多數群生し、晩秋の候には庭園内なる菊にも轉移し來るを見る。

6. クリニンジンヒメヒゲナガアブラ

Macrosiphonilla pseudoartemisiae SHINJI n. sp.

無翅胎生雌蟲

體は淡綠色乃至綠色にして小數の短毛を生じ、腹部の背面には黑色なる斑點乃至斑紋なし。頭部の幅は長さに優り、頭頂は殆んど一直線をなし、從つて甚しく彎入せず、2,3對の剛毛を生ぜり。額瘤は顯著にして外方へ開き體と同色なり。複眼は濃赤色にして同色の眼瘤を伴へり。口吻は後肢の基部を過ぎて長

く伸び、全長に亙りて概して黑色なり。觸角は體よりも長くして6節より成り、各節は若干の短毛を生ぜり。第3節の後半部以後第6節の末端に至る部域は覆瓦狀を呈し、第3第4兩節は概して體と同色なれども末端部は黑く、其他の諸節は全長に亙りて黑色なり。第1節は第2節の約1倍半大、第2節は幅よりも

クソニンジンヒメヒゲナガアブラ
Macrosiphoniella pseudoartemisiae Shinji
A–B. 無翅胎生雌蟲の觸角　C–D. 有翅胎生雌蟲の觸角　E及G. 無翅胎生雌蟲の蜜槽と尾片　F及H. 有翅胎生雌蟲の蜜槽と尾片

長し、第3節は前腿節と約同長なれども、前脛節よりは幾分大なり。2個乃至7個の小圓狀感覺器を基半部に具へたり。第4第5兩節は約同長若くは第5節が第4節よりも幾分長し。第6節の鞭狀部は基部の約6倍長あり。胸腹兩部は共に淡綠色にして黑色なる部分を具へず。肢脚は頑丈にして短毛を生じ、腿節の後半部と脛節の後端部にして全脛節の約4分の1に當る部分と爪とは黑く、殘部と殘節とは體と同色なり。蜜槽は準圓筒狀にして尾片よりも短小、且つ基部近くに於て幾分膨れたり。後半部は網狀を呈し、基半部は覆瓦狀を呈せり。全長に亙りて黑色乃至薄黑し。尾片は準圓錐形にして約4對の毛を生じ、基部近くに於て縊れたり。淡綠色なり。

測定 (mm.): 體長 1.80; 體幅 0.93; 觸角長 I 0.09, II 0.05, III 0.45, IV 0.35, V 0.36, VI 基部 0.15, VI 鞭狀部 0.67; 腿節長 前 0.55, 中 0.35, 後 0.55; 脛節長 前 0.78, 中 0.60, 後 1.10; 蜜槽長 0.17; 尾片長 0.22.

有翅胎生雌蟲

體は約長楕圓にして極めて小數の短毛を生じ地色は淡綠色乃至綠色なり。頭部は頭幅が頭長に優り、薄黑色を帶びたり、額瘤は顯著にして其內側端は外側へ向ひて開けり。複眼は顯著にして、同色の眼瘤を伴へり。口吻は辛じて後肢

の基節窩に達し、全長に亙りて薄黑し。觸角は體よりも遙かに長くして6節より成り、各節よりは小數の短毛生ぜり。第3節の後半部以後第6節の鞭狀部の末端に至る部域は覆瓦狀を呈し、且つ全長に亙りて薄黑乃至黑色なり。第1節は第2節の約1倍半大、第2節は幅よりも長し。第3節は前脛節と約同長にして20個乃至23個の小圓狀後生感覺器を具へたり。第4第5の兩節は約同長なるか若しくは後者が前者よりも幾分長し、第6節の鞭狀部は基部の約6倍長ありて兩部間の原生感覺器は圓狀なり。胸部は薄黑色を呈し、筋肉は良く發育せり。肢脚は頑丈にして腿節の後半部と脛節の後端部にして全脛節の約4分の1に相當する部域と跗節と爪とは黑く、殘部と殘節とは淡綠色なり。

翅は準透明にして脈と翅斑とは薄黑味を帶びたり。

蜜槽は準圓筒狀にして尾片よりも短小なり。後半部は網狀を呈し、基半部は覆瓦狀を呈せり、全長に亙りて黑色乃至少くとも薄黑し。尾片は準圓錐狀にして長大なり、約4對の剛毛を生じ、中央よりも基部に近く縊れたり。全長に亙りて體と同色の淡綠色なり。尾板は圓く終り、體と同色なり。

測定 (mm.): 體長 1.67; 體幅 0.80; 翅長 2.40; 觸角長 I 0.07, II 0.07, III 0.45, IV 0.37, V 0.35, VI 基部 0.20, 鞭狀部 0.60; 腿節長 前 0.50, 中 0.40, 後 0.55; 脛節長 前 0.60. 中 0.20, 後 1.10; 蜜槽長 0.18; 尾片長 0.20.

宿主植物: クソニンジン

標型地: 岩手縣盛岡市上田。

採集年月日: 昭和4年9月15日。

分布: 盛岡、東京(大森)、靜岡。

習性: 葉裏及び嫩芽に寄生すれども蟲癭を營まず。5月より10月下旬まで同一宿主上に見らるる點よりすれば中間宿主は無きが如し。本種は秋季宿主植物が開花期に入る頃に繁殖が盛大となるものにして、體色は宿主の葉と同色なるを以て發見容易ならず。一般には宿主植物を折り撓め、之を白紙上にて打つ時は多數の標本を得るものなり。